

第3回長野市総合計画審議会（H18.1.16）議事の内容

議事（1）

事務局から、基本構想骨子案（骨子たたき台）について説明

P1～16 基本構想骨子案についての質問、意見

- ・ 施策の大綱の各タイトルは、できるだけ見てすぐに分かる見出しにする必要がある。また各分野において、ある程度、表現方法を統一する必要がある。
- ・ 各案において、理想論を書くのではなく、裏付けがあり実現可能なことをスローガンとして掲げることが大切である。
- ・ 総合計画は長野市の最高方針に位置付けると書かれており、長野市における全ての計画は総合計画が基本になると思うが、各施策をどう実現していくのか。これから実施計画を作り込んでいくが、その中で具体的に向こう3ヵ年の施策、事業を提示していく。他の分野別の計画については総合計画と連携を図り、整合性を取りながら進めていき、基本的には総合計画に沿った形にしていく。
- ・ 総合計画に載せていない事業はできないということか。基本的には総合計画に合わせるということになるが、新たに加えていく要素も出てくる可能性があるので、その場合は柔軟に対応していく必要がある。
- ・ P7の分野別個別計画とP2のまちづくりの方針の各分野は違うものか。だとすれば紛らわしい。P2のまちづくりの方針における分野は総合計画上で分けた分野であり、P7でいう分野別個別計画とは違う。
- ・ P10（1）に“地域内外への両面性”とあるが、これは地域内だけではなく地域外の両方に関係するという意味だと思うが、市民には大変分かりづらいと思う。総合計画だけでなく行政の説明資料は大変分かりづらいと言われているが、なるべく分かりやすい表現にしていきたい。

- ・ P13 の交流人口で「交流人口の増加により、今後の定住人口減少による都市活力の低下を補う。」と書かれており、定住人口は必ず減少するという前提がある。これから検討していく目標人口は設定することができないという感じがするが、これについては議論をして、設けられれば設けていくということだったが、分析した結果、それが無理ということであれば、あえて設定する必要性があるのか疑問だ。

統計的手法でいうと、平成 28 年には現在の 38 万 3 千人が 36 万 7 千人になる。また今回の国勢調査によって基本的に人口減少に入ってきているという現実問題がある。その状況で、統計的手法で人口が減少していく中でそのままでいいのか、市として施策を展開した上で人口減少の下げ幅をどうするのか、ということを考えている。したがって目標人口を 36 万 7 千人以上にするのかしないのかということを検討することになっているので、その点を踏まえて議論をお願いしたい。現在の 38 万 3 千人でもよいのではという議論もあるかと思う。基本的には事務局で理論付けした上で方向性を示したい。また表現については基本構想の骨子の段階なので、今後基本計画を作っていく中で変わっていくことになる。これで基本構想が決定したものではないことを理解してもらいたい。
- ・ 長野市が直接できること、間接的にしかできないことがあり、資料を読んでいると長野市が何でもできることを前提に書かれているようにとれる。国・県と市の分担が市民に分かるような表現を意識した方がよい。もちろん市は国・県と協力していかなければいけないので無関係ということではないが、市民はそれをどこでやっているかを知らないなので、そこを説明できるような表現が必要だ。
- ・ 総合計画なので全ての分野において網羅されている反面、どこにポイントを絞っているのか少し分かりづらいと思う。市民に対して具体的にイメージできる表現にしたほうがよい。
- ・ 最上位の計画なので、このような当り障りのない文章になってしまうのは仕方がない。そのなかで具体的な表現を入れていくのは難しいが、今後各部会で議論していくことだと思う。
- ・ P11 の視点 1「パートナーシップのまちづくり」とはどういうイメージなのか。自立した市民とあるが、自立できない部分もあり、そこがパートナーシップのまちづくりなのかと思う。今後、地方分権の流れの中から自治自立、相互扶助ということがこれからの長野らしさ、長野市の目標だとすれば自立した市民と言い切ってしまうのは言葉としてどうかと思う。また、目標人口の議論の中で、P22 の福祉分野の

「1 安心して子育て・子育てができる環境づくり」について、人口の自然増を図れる施策をどう考えていくかが自立した長野になっていく要素だと思う。その要素が安心して子育て・子育てができる環境づくりだとすれば人的な問題があるのかと思うが、そこがよく見えないので自立した市民とはどう考えているのか教えてほしい。自立した市民についてここで意識したのが、これからどんなまちづくりにしていこうかということに関して、意識的にまちづくりに参画してもらえる市民ということで自立したという表現にした。意識としては、市民も行政も互いに意識を持ってまちづくりに向き合っていくということがパートナーシップに繋がっていくのでは、ということから表現した。自立している、していないで福祉的に切り捨てるといった観点からの自立ではない。

- ・だとすれば、パートナーシップによるまちづくりではないか。パートナーシップがありきではないと思う。
スローガンにするために少し国語的に無理しているところがあるかと思うので、今後精査していく必要があると感じている。定義されていない言葉を使おうとすると市民によっていろいろな取り方があるので、これからまとめていく上でひとつのポイントとして、特に新しく訴えていきたい部分については、より分かりやすい表現が必要だと感じている。
- ・交流人口について、前回の説明で観光の指標であることがよく分かったが、観光はひとつの産業であって、観光だけでなくビジネスによる交流も大変増えてきており、観光客がピークから落ちてきている現状の中、将来に向けて幅広い交流を取り込めるような指標を考えていくべきだと思う。長野市は県庁をはじめ様々な企業の本社・支店があるのでコンベンションにおける数字もあるかと思うが、新しい要素を収集していくことも必要だと思う。
- ・単なる理想論だけを掲げてしまうと当初の計画が現状からかけ離れていくことになってしまうので、計画が達成できる現実的なものにしていく必要がある。計画には将来像も含まれているが、ただの理想論の作文にならないよう作ってほしい。
- ・P16 の土地利用構想の部分だが、(2) 田園・山村地域 アの3つ目、遊休農地の解消についてもっと具体的に記載してほしい。
それぞれの項目を具体化したイメージにしていかないと他の市町村と同じものになってしまう。その中に長野らしさをどう盛り込んでいくかが今後の課題だ。

- ・ P11 のまちづくりの視点について、時代に即した言葉も出てきており、パートナーシップや長野らしさについては部会の中でも議論になっている部分であり、各部会にも通じるものが包括的に入っていて大変よいと思う。ただし、視点が3つでよいのか、落ちている要素がないか、審議会の中で確認する必要がある。また視点の中に今後の目標に向かって長野市の強い意思が感じ取れるような表現を入れてほしい。
- ・ P3 の第三次と四次の基本構想の構成案比較を見て、配列を含めて大変分かりやすく進化していると感じた。全体をまとめていくに当たり、分かりやすいことが重要であり、市民にどう理解してもらえかがポイント。例えば序論、目標編といった言葉を具体的にイメージできる言葉選びをしていくべきだと感じた。“長野”の表現については構想のなかでも長野・NAGANO・ながのと標記されており、それぞれ意味があるものだと思うが、意味合いをしっかりと表示していけば、より分かりやすい計画になると思う。目標人口については、しっかり検討して明記してほしい。
- ・ 他の委員の意見と同様に、これは市民の皆様には難しいと感じている。もっとやわらかい表現を使ったほうがよい。また、まちづくりの視点の中に老人や障害者の人達に対する視点が全く入っていないが、3つの視点のなかで表現できないのか。目標人口については、前回の審議会で現実的に設定は無理だと感じており、議論の対象から外されていると思っていた。
まちづくりの視点については施策の大綱とリンクしており、各々の施策を展開していくに当たり、この3つの視点を考えながら進めていくものなので、高齢者・障害者などの文言は入れづらいと考えている。その意味では視点1あるいは2あたりがあると理解してほしい。
- ・ 今までの計画は難しい言葉が並んでいて、それを見ただけで無関心になってしまうので、できるだけ多くの市民の方が関心を持ってもらえるような表現の仕方が大事だと思う。目標を高く掲げることも大切だが、あまり理想だけを掲げるのではなく、一般市民の方がどのようなまちを望んでいるのかということを理解した上で、作業部会でも一般的な意見を出し合って進めていくことが大事だ。
- ・ 市民に分かりやすくするため、難しい用語やキーワードには用語解説を入れてほしい。

- ・ P 39 でまちづくりの方針、方向性が細かく載っており、形成・推進・充実・整備・創造・実現・活性化・促進・普及の9つの言葉がほとんどの文章の語尾に入っているが、これらを使わないと文章は作れないのか。
- ・ 目標編にまちづくりの視点が入ったことは大変よい。視点1に“自立した市民”とあるが、行政も改革を進めていくと同時に、これからの社会において市民一人ひとりがどれだけ成熟していけるかが大きなポイントであり、視点の中にそんな表現も入れたほうがよい。視点2の“地域力”と“人間力”については、最近、～力という表現が流行っており便利な言葉だが、10年後を考えた時に微妙な表現だと思う。また、視点2の三行目に資源とあるが違和感を感じる。自然や歴史・文化・風土は資源という言葉以上のものだと思うので、例えば自然を再発見する、見出す、大事にするなどのニュアンスの言葉の方が適当だと思う。

P 17～39 まちづくりの基本方針編についての質問、意見

・福祉部会

福祉の分野においては全ての住民を視野に入れて議論を進めている。表現については第三次計画と比較して今の時代にあったものになっているが、各部会によって若干ニュアンスも異なるので、一貫性をもつ必要性がある。

・環境部会

全体的にバランスが取れた文章になっていると思うが、主観的なものがあり、言葉では上手くまとめているが、本当に実が入った内容になっているかは不安な部分もあるので、今後の部会の中でまとめていきたい。部会では環境教育についても議論しているが教育部会では触れられておらず、今後提案してほしい。

・防災部会

タイトルを「より安全で安心して暮らせるまち」として、“より”という比較した言葉にしているが、具体的なデータを示すことが基本であるという理念に基づき、“より”としている。内容については具体的なデータを基に災害が起きてしまった時の対応を予め市民と一緒に築いておくことが防災の基本理念であることを取り入れて作った。今までとは違う発想で作ったつもりだ。部会も事務局がリードする形ではなく、部会員の中で主導的に議論していくことを心がけている。

- ・ 教育部会

文言的に読み取れる部分として、ソフト面や体制づくりについて盛り込んでいる。これから成果主義になっていく中で、評価方法を統一していくことについて気を付けなければいけないと思う。

- ・ 産業部会

長野市の活性化をどのようにすればよいかについて議論してきた。内容については、商業・産業、農林業、観光が長野市を支える一番の原動力だということを認めているが、これをどうするべきだという結論まで至っていないのが現状である。

- ・ 都市整備・土地利用部会

話し合いの中で長野らしさをどう示していくかについて議論しているが、文章にしてしまうと他の市町村と変わらないという意見もあり、これから具体的に作り込んでいく中で本当に市民が求めているものを作っていきたい。

- ・ 今回の資料を読んで、他部会について意見はないか。

- ・ 都市整備部会の中に“国際交流”が入っているが、これから外国人が増えてくる時代にあって、この部分は人権問題や教育に関連していく分野だと感じている。国際化に向けた子供の国際教育などは都市整備との関連性が薄く、この部会に入っていることに少し疑問を感じている。

- ・ 環境分野にある“景観”について、環境的なまちづくりの視点と他の視点と目指しているものが違うと意味が無いので、他の部会とすり合せていく必要がある。環境教育については教育部会とやり取りをしたいと考えている。

- ・ 福祉部会では“人権”について同じような意見が出ており、福祉で位置付ける問題なのか、教育にも関係してくると思うので、調整する必要がある。

- ・ 防災部会では“斎場整備”について福祉分野ではないかという意見が出ている。また、P26の環境分野の“安全で快適な生活環境の形成”について、防災の安全安心とダブる状況にあるので、少し議論したいと考えている。

- ・ 教育部会での議論は学校における義務教育が中心にならざるを得ないと思うが、家庭に戻った地域の子供たちについては福祉部会との関連も大きく、どこまで教育部

会で話していいのか難しいという意見も出ている。両面から考えていかないと上手くいかないと思うが、地域の連携による子育てを考えたときに部会内で問題になっている。環境教育については、学校教育の中でも推し進めていく分野になるかと思うので、教育部会で動いてもよいと思うが、文言の尺度、レベルを合わせるということになると、大きくは取り上げることができないと思う。

今日の意見については、すぐに別の部会に移すということではなく、双方で話題を出して議論し、最終的に記述するときはどうしていくか、というように考えていきたい。斎場については福祉部会でも議論の対象に加えていただきたい。国際交流については、都市整備・土地利用部会は他部会より幅広い分野であり、どちらかというところ全体にかかわってくる問題で他の作業部会よりは幅が広い、重複してもかまわないところのような気がしているので、他で拾えないものは拾わざるを得ないかもしれないし、全体的に都市空間をどう捉えられるかと考えたときに、最終章としてまとめの存在の章になるかと思う。

- ・国際化については必ず他の部会においてもかかわる部分があると思うので、そちらでも議論をしてほしい。全てを都市整備部会でまとめてしまうより、他の分野においても国際化における言葉が入れば、これから細かい部分の計画の議論になったときに何かできることがあるのではと思うので検討してほしい。また、現在、同じ枠の中に地域間の交流と国際交流をひとつにまとめているので、都市整備部会の中で3と4に分けるという考え方もある。
- ・どの分野でも“地域”という言葉が大切に扱われており、地域の役割を地域に押し付けるような文言になってはいけないと考えている。各分野で出てくる言葉なので、特別に扱うような形でくくってもらいとありがたい。
- ・P37の2に“地域の实情に合わせた公共交通システムの構築”とあり、要素の中に“地域主体のバス運行の推進”とあるが、これは具体的に実現可能なシステムとしてどのような取組みをしていくのかをお聞きしたい。
現在、廃止した路線バスを行政主体で廃止路線代替バスとして運行しているが、地域主体のバス運行とは、自分の地区にバスを走らせるために、地域で協賛金などを集めて、それでバス事業者に委託し、不足分を行政が支援して負担するという仕組みのもので、これからの公共交通システムとして進めていく手段のひとつである。
- ・教育分野について、P31の「3 ゆとりと潤いを感じる多彩な文化の創造と継承」の要素の“野外彫刻の魅力向上”について、実際に野外彫刻というものが今の社会

情勢の中で必要性があるのか、ということを検討された上での魅力向上なのかということをお聞きしたい。

野外彫刻というものが長野市の文化として、長野市全体を彫刻のまちとして文化の薫り溢れるまちとしてのひとつの位置付けとして従来から進めている。部会でもかなり時間を割いて議論しているが、野外彫刻の取組みとして本当に長野らしい文化の形にするにはどうすればよいかということで“野外彫刻の魅力向上”としている。

- ・今まで予算を費やしてきたものをもう一度認知して見てもらうことは非常に意義があることだと思うが、新たに予算をつけて設置していくということについては、現状の魅力を向上した上で新しい設置を考えてもらいたい。

- ・まちづくりの視点で長野らしさという部分を取り入れていくことが必要だと思う。野外彫刻の件でも長野らしさがどこにあるのか、行政経営の部分においても長年予算をかけてきた事業を止めるという判断が非常に難しいということをよく言われるが、視点3の中で行政のスリム化や効率化等、業務を見直すということを掲げているので、どこかで英断を加えていくことが各分野で共通の課題だと思う。また人材育成について、P30に“次世代を担う人材の育成”とあるが、教育の場を提供すれば人材は育つのか、長野を担う人材の育成について要素の中のどこで強く意識をしていくのかを議論してほしい。

基本構想をまとめていく上で、実現性をイメージできるということは非常に重要であり、その中に基本計画として打ち出せるものを意識しながら今後、議論していくということが大事だと思う。

- ・福祉分野のタイトルにある“健康福祉”について、四文字でひとつの単語にしていると捉えられるが、健康・福祉ではなく、ひとつの単語としてのイメージでよいのか。

健康福祉という四文字熟語はなく造語である。部会でも健康福祉という表現については、もう一度考えようということで投げかけており、大タイトル、中タイトルを含めて今後変更があるということを知りたい。

タイトルについては、各分野を横並びで考えたときにひとつの方針がなければいけないと考えている。

議事（２）

事務局から、まちづくりの目標（都市像）について説明

- ・都市像については次回以降の検討にさせていただく。今後、審議会の意見を参考にしながら都市像を決めていきたいと考えている。本日の資料は都市像のイメージを膨らませる資料としていただきたい。

その他

（１）長野市財政構造改革懇話会提言について事務局から説明

（２）次回の日程について事務局から説明

以上